

広葉小学校区における適正配置にかかる住民説明会

と き 平成 20 年 6 月 27 日 (金)

ところ 広葉小学校 視聴覚室

じかん 19 : 00 ~ 21 : 10

参加者 17 名

事務局 教育長 白崎 三千年
管理部長 小菅 敏博
教育施策推進担当参事 工藤 正
主査 川合 隆典
主事 木村 洋一郎
教育相談員 宮村 昭

-
- 開 会 19 : 03 ~ 進行司会 小菅部長
 - 教育長挨拶 19 : 05 ~ 19 : 10
北広島団地内小学校の新たな適正配置及び本日の説明会の主旨説明
 - 北広島団地内小学校の適正配置について説明 19 : 10 ~ 19 : 30
工藤参事から、資料に基づき説明
 - 参加者からの意見、質問 19 : 30 ~

事務局 それではこれから質疑応答に入らせて頂きます。

住 民 冬季に、一度子供に歩かせてみると仰っていましたが、歩かせてみてどうだったのでしょうか。

事務局 夏と冬に、2回保護者の皆様のご理解とご協力をいただき、実際に歩いてみました。就学前の子供さんと1年生、それと2年生の組み合わせということで歩いてみました。時間につきましては、説明会の中で、実際に歩いたら1時間以上かかったというお話をされた方もおられました。それで、一緒に協力していただいて歩きましょうということで歩いた結果の時間を申し上げます。

事務局 歩いたのは、ロイヤルシャトー前から若葉小学校まで。行程として2つございます。トリムコース(緑道)を通るルートと、北進通・中央通を通る2つルートで行いました。2年生の組と就学前の年長児の組に分けて行っております。2年生の組は、行きが、トリムコースを通過して40分、それから年長児の組は北進通・中央通を通り42

分。復路が逆に2年生が、北進通・中央通を通過して41分。新1年生の組は、トリムコースを通過して44分でした。

住 民 お天気はどうだったのでしょうか。

事務局 天気は曇り、気温は7時が-16.6℃、8時が-14.4℃で、その時の積雪が27cm。風速が、7時の時点で0.7m、8時の時点で0.2mという状況です。

住 民 それは普通の曇りですね。雪がかなり降ったあとだとか、吹雪いたあとには、朝に雪が積もると、道路の除雪をしていないです。雪がかなり降ると、家の方から車道までは全然除雪していない状態です。そういう時もあります。それだともっと通学に時間がかかるということですね。それを、小学校1年生が今まで幼稚園バスで送迎されていたのが、急に1時間歩いて、皆さんはそれでいいと思っていらっしゃるのでしょうか。42分だとか50分かかったことに対して、検討されたのでしょうか。

事務局 通学路の距離、通学路の状況については、子どもは夏・冬だけではなく、四季を通じて確認はしております。通学距離に関し、時間については状況によって多少変動はいたします。全国的、道内的にも、通学距離的には教育委員会としては問題ないのではないかと判断をしております。

それから、除雪については、登校時までに除雪を終えるということで、基本的に除雪体制が組まれております。当然、除雪をするためには一定の条件、10cm以上の積雪があった時に行います。降る時間帯によっては、通学時に間に合わない状況もございしますが、概ねそういった条件で除雪が行われております。市内全体、同じように極力通学路は確保するという形になっております。先ほどもおっしゃいますように、1年のうちにそういう状況も必ずしも無いわけではないと言えます。

住 民 学童保育のことですが、学童保育の子供の帰りは何時になるのですか。

事務局 基本的には5時で、保護者が迎えに来るという条件で、6時と聞いております。

住 民 では、冬でしたら5時はもう真っ暗ですね。その帰り、かなり遠い距離を歩いて帰ることになります。親が迎えに行ける子供はいいですが、行けない場合は子供が1人で帰ってくるということですね。それは大丈夫なのでしょうか。

事務局 学童クラブにつきましては、若葉小学校に作るという前提でお話をされていると思うのですが、現状において、若葉小学校の中に設置するとは決めておりません。

したがいまして、先ほども説明いたしました、統合が決まった後に、保護者の方々の意見を聞きながら学童クラブの施設を整備していくというのが市の考え方です。現状においては、学童クラブからの帰りについては、今の状態と全く変わらない状況です。

住 民 何度も同じ説明をされて、教育委員会の皆さんも大変だとは思いますが、これから統合に向け、決まってから決めることがたくさんあります。その決まっていく過程において、私達が意見を言える場はあるのでしょうか。それとも、委員会のようなものに一切を委ねなければいけないのか、例えば、学童保育の問題にしても、やはり不安なところが色々あります。決まってみたら、予想していたことと全然違うという風になるとちょっとガッカリします。そうなった場合に、私達の意見が言える場があるのかどうかお尋ねします。

事務局 皆さんの意見を発言する場についてですが、細かい所と言えば色々なものがあると思います。例えば、先ほども説明いたしましたように、それぞれの小学校に作ろうとしている統合委員会的な会議の中で、実際の学校内での教育の話もあれば、先ほどお話のありました除雪のことも議論されるかもしれません。実際に協議をする内容は、今想定していないことも出てくる可能性があります。基本的なことについては、学校・地域・教育委員会、そして、当然保護者の皆さんも入るこの統合委員会的なものの中で、それぞれ考え方を出示してもらいます。市が関わるものも今まで色々説明をしていますが、それ以外のもも出てくる可能性があります。その都度、検討していくべきこともありますので、ケースバイケースになると思います。この問題だけではなく、市に対する要望などがありましたら「市民の声」という方法もありますし、自治会通信という自治会単位であげてもらう場合もあり、色々な場面で取上げていく方法が現在もあります。そういうことで、色々な機会の中で考えていけるとと思います。

住 民 こういった説明会は2度目の出席なのですが、前回の資料と今回の資料を見させていただいて色々な方々が意見を言っておられ、教育委員会の方々もそれぞれの立場で回答をしているのですが、率直にお聞きして、こういった参加者の意見や質問があって、それを取り入れて改善した部分はどこかあるのですか。

事務局 具体的には、区域外通学の部分について、明確な考え方を示しております。その他、通学上の安全についてです。登下校の安全確保については、地域の皆さん、保護者の皆さん、学校、行政が色々な形で一緒になって地域で守っていくということで協力いただいております。実際に統合が決まりましたら、登下校時の安全確保の一つとして、パトロール員の配置についてこうしていきたいというようなお答えもしており

ます。

基本的には、私どもは答えられるものについては、お答えしていると考えております。

住 民 まだ2回の参加でしかないのですが、聞いている限り、堂々巡りだというのが率直な感想です。こちらにも意見や言いたいことを当然言わせていただきます。

しかし、いつも同じ答えて、物事を進めるためには必ず歩み寄らないと進んでいかないと思うのですが、その歩み寄りが今全く見えてきていない、というのが率直な感想です。

では、果たしてこのままでいいのか。このまま回数を重ねた説明会で、実績作りをして、参加者の述べ人数で実績作りをして、何回の説明会で何人が参加しました。それによっておおよそ周知を図ったということで、物事が決まっていくのが一番不安です。

先ほど学童、或いは校舎が決まってから決めていかなければならないことがあるという話の中で、私たちの意見は反映される場があるのでしょうか、と言う質問はまさにそれが素直な気持ちだと思います。今、こういった説明会で、話し合いと言いながら、一方的な意見の言い合いだけになっています。ですから、最初の質問で何かこういった意見や質問がいっぱい出ている中で、教育委員会の方が、あらためて考えを変えたり、何か取り入れたり見直した部分はあるのですか聞かせていただいたのです。でも、ちょっと違った答えだったというのが率直な感想です。

話が変わりますが、先ほど冬場で40分とか45分、時間が掛かったというお話ですが、例えば、小学生が冬その時間に歩いて1時間目の授業ですぐ鉛筆を持って授業が出来ると想像しているのでしょうか。全然、問題なく授業に入れると思っていられないのかどうか、お聞かせください。

事務局 先ほど説明をさせていただきましたが、1年生が入学した当時は、確かに負担が無いとはいえないと思います。お母さんやお父さんの不安な思いは分かるつもりでおります。今までより、少し早く出ただけかなければならない場面もあるかもしれませんが、通学時に、地域の子供さん達が一緒に通っておられるのを私どもも見ております。

また、地域の方が、夏も冬も、朝に通学路に立ちながら、安全を確保していただいている所も見ております。大変寒い中を通うのには不安はあるとは思いますが、通学の中で体を鍛えられる部分もあると思いますし、子供どうしで一緒に通う中で色々勉強する部分もあると思います。そうしたことを含め、2kmの範囲であれば通っただけだと思っております。

住 民 距離が何kmとか、決まりがこうなっているから、という机上だけで物事を判断しないでいただきたいのです。今の行政の仕事というのはそうではないです。やはり、決まりは決まりであって、それは、確かにまずは重視すべきことだと思うのですが、現実を見て取り組まなければならない所は取り組まなければならないし、変えなければならない所は変えなければならないと思うのです。あるいは、そういう姿勢でないところからの行政は駄目だと思います。そういう中で、皆さん今日こういった説明会があって、市役所から歩いて来られていますか。車で皆さんいらっしゃっています。要するに、大人が歩いてもここまで15分か20分で来るところを、現実には車で来るのです。それが実状なのです。それを、距離が2km以内だから子供を40分、45分かけて歩け。現実と違うのです。そういう所をもう少し考えて、これから色々なことを議論していただきたいと、最後にお願だけしておきます。

住 民 皆さん、今、冬道のことを話されていたのですが、私は実際子供たちと一緒に歩いた者です。本当に寒い朝でしたが、子供たちは、久しぶりにお友達と会えたので喜びながら歩いていきましたが、とにかく寒かったので、着いたらまず皆トイレに行きたいという感じでした。ですから、もし通学するということになったら、遠くから来ている子は、すぐトイレにという感じになると思います。若葉小学校の中に、私は、校長室しか入ったことがないのでわからないのですが、若葉小学校がどういう構造になっているのかとか、そういうことを知らないままに、いつも若葉小学校の方が、と聞かされているので、是非今度、若葉小学校見学ツアーみたいなものを催していただいて、実際、こういう風になっているのか、と自分の目で見るとまた意見が変わってきたりすることもあると思います。ですから、子供が着いた時にトイレが間に合いそうな数があるのかとか、そういう細かいことが親は気になるものですから、ここで話し合っているだけではなく、もっと色々歩み寄れる姿勢があると思います。実際に皆で行ってみるとか、説明会を若葉小学校でしてみるだとか、そういうことも出来ると思います。若葉小学校の方が、広葉小学校を見に来られているのかも分からないですけれども、お互いがお互いの学校を見たり、そういうことをして話し合うと言うのもいいと思います。それから、冬は本当に大変でした。私は、赤ちゃん連れで行ったのですが、参観日とか行くのはいやだと思いました。車のある方は、さっと参観日などにも行けると思うのですが、親の方もしんどい道を、毎日子供たちを行かせるのかと思うと、正直大変だと思いました。これで、風と雪がついていたら、うちの子は、途中で帰ってくるのではないだろうか、と思いました。今の親は甘やかしすぎている、と言われるとそれまでなのですから、そういうことも考慮していただきたいと思いません。

事務局 校舎の見学については、今まで検討してきていない状況であります。ご希望等があ

れば、検討はしたいと思います。トイレの部分について限定しますと、児童玄関から入ってすぐに子供達のトイレ、身障者用のトイレが若葉小学校の場合にはございます。そういう点で、使い勝手の方についても点検をしながら検討をしています。

住 民 若葉小学校の方が望ましいという理由の中で、何点かあるのですが、私も向こうの校舎が分からないので、今の意見で向こうの校舎の良い点をみせていただければと思いました。例えば、夏の早い時間に集合をかけていただいて、若葉小学校は、敷地が平坦で面積も広く、学校周辺の自然環境においても恵まれており、グラウンドの状態も広葉小学校より良好である、という説明をしていただければ、こんなに違うのだという実感が出るのではないかと考えます。

資料に4点書いてあるのですが、今回説明されている方5人がこのことを本当に見ているのかなという部分ではどうなのでしょう。どなたが行って聞いてきていますか。皆さんがグラウンドの敷地とか自然環境とかそういう部分でも5人とも認識していますか。

事務局 今日、説明会に出席している教育委員会職員全員が見ているのかというお話でしたが、私どもだけではなく、教育委員さんも現地と一緒に調査しております。

住 民 それであれば説明も出来ると思います。今度、夏の機会に、その辺の自然環境についてもこの様に差がある、ということを説明していただければ、それこそ歩み寄れる部分もあるかもしれません。説明されて、実際の所本当は大したことはないのではないかと思うかもしれないし、その辺でまた話し合いもできるのではないかと感じました。

住 民 学校を選定する理由は、これだけでいいのでしょうか。これだけの理由で、学校を決めて、今後、問題ないと考えているのでしょうか。あるいは、今回の学校選定の判断が、今後、長く見た時に間違いない、と自信を持って言えるのかどうかをお聞きします。

事務局 今回の統合の方向付けについては、統合についての基本的な考え方と、具体的に2校を1校にする上で、どういうものをベースにして、使う校舎を選定するか検討を進めております。広葉小学校、若葉小学校の両校を一旦廃止して、新しい学校を作ることがまず基本にあります。そうした中で、2校のうちどちらの学校を使用するか、比較をしてきました。比較するために、大きな柱を立て、その柱について検討をしてきました。その中に、今の校舎の環境やグラウンドの状況、周りの公園も授業で使う場合もありますので、そのような周りの環境等、実際の数字等を含めて調査・審

査・検討を重ね、現地調査も行い、方向付けをしたということでもあります。

住 民 例えば、周りの環境や校舎は、手を加えればどうにでもなるような物だと思います。

しかし、私が今気になっているのは、資料1ページの広葉小学校と若葉小学校の今後の児童の推移等、平成20年から平成26年までしか書いていませんが、恐らく過去はもっと子供達が多かったと思います。それが、年々減少してきて、今に至っていると思うのですが、今後、子供の減少の度合いを考えた時に、今ある広葉小学校区と若葉小学校区の児童の数が、どちらが減少し、どちらが増える要素があるとか、並行して推移するとか、そういうことが大事なのではないかと思います。

そういうことから言うと、今駅前に大きな高層マンションが建って、マンションが建ったから、まだ学校に通う児童も減らずに推移してきたというのもあると思います。

では、若葉小学校区で、今後そういう様なことがあるのかと、そのような目を見たときにやはり疑問が残るのですが、色々なことを考えて、本当に若葉小学校でいいのか、というのが率直な気持ちです。何年か経った時に、本当に若葉小学校でよかったのか、というのが率直な気持ちです。

事務局 今、産まれていない子供の数を推計するのは、非常に難しい部分があります。市全体などの大きな枠の中で推計するのは、ある程度可能かもしれませんが、地区別といった、小さい地区の中で、的確な推計をしていくというのは難しいと考えております。今は、住民基本台帳で確実にわかる方法で行っています。ただ、児童数につきましては、先ほども申し上げたのですが、これは全国的、道内、近隣を含めて減少しているという事実がございます。それに加え、少子高齢化から、北広島団地内の子供の減少率が、極端に高くなっております。北広島団地は4住区に分かれていますが、今回、2住区ずつ統合という案を出しております。その中で、問題は道営住宅の部分、具体的には、輝美町団地の再生計画についてであります。改築について、今見通しがはっきりしたものが無く、将来的にどちらが増えるのか、現状において予測は不可能ではないかと考えております。

事務局 今までの数字の移り変わりで申し上げますと、昭和56年当時、広葉小学校の子供は、897名いました。それが、現在236名にまで落ちてきています。若葉小学校も、昭和54年に519名いた子供が、現在170名を切るというような状況です。この当時の人口は、3万6,7千人だったと思います。人口は増加していますが、子供の数は、残念ながらどんどん減少している。減少の一途を辿っている、と言っても過言ではないような状況にあります。住民基本台帳で拾った数字でみましても減ってきており、これからも減っていくであろう、という数字が実際にでておりますので、その辺を基にして検討を進めてきた経過があります。

住 民 まず、今回の印象を言いますと、前回 3 回目の説明会に来られず、今回どんな話になっているのかと思って来たら全く変わっていない、というのが率直な印象です。今回、説明会を地域に分けて行われる様なのですが、地域に分けた理由というのはこちらからの要望だったのですか。

事務局 市民の皆さんや、保護者の皆さんからの話ではありません。私どもの方で、広葉小学校での議論が非常に多いことと、課題もある程度あると思っておりますので、広葉小学校区だけ 4 回目の説明会を実施することにいたしました。なぜ 3 地区か、と言いますと、駅前のマンション中心の地域と、輝美町の地域と、広葉町・栄町の地域と、同じ広葉小学校区でも成り立ちが、例えば、マンションと戸建て、道営住宅が多い地域とでは考え方や、保護者の皆さんの思いも違う場合があり得るのではないかと。そういうことから、今回地区を 3 つに分け、平日と土曜・日曜、少なくとも、平日に来れる方と、土曜・日曜でないと来れない方がおられますので、そういう設定をさせていただきました。

また、日曜日は参加しにくい、というご意見もありましたので、土曜日と平日の夜 7 時に設定をした経過があります。

住 民 安全面についてですが、資料では、安全確保のためにパトロール員を配置し、その具体的な配置方法について、今後協議していくという話になっています。1 番心配しているのは安全面のことであって、この段階でこれだけのことを我々はするのです、という意思表示が、今の段階で無いと納得できません。後で決めるからと言われても、うやむやになってしまいそうで、本当に何時の時間帯にどれだけの人数がいるのか。帰りの時間帯が皆違うのだから、ここに、私たちの協力も必要になってくると思うのです。

しかし、小学生が少ないということは、親も少ないわけで、本当にそれで広い所をカバーできるという考えがあって、書いているのか不安です。その辺をこうしますよ、とハッキリ言えないのでしょうか。

事務局 基本的に、パトロール員は、安全確保のために行政側として配置します。ただ、皆様方の協力、話し合いをしながらその中で、より効果的なのはどこに配置し、何名必要なのか。また、どういう協力が得られるのか、だから何名でどこに置くということは、お互いに今後子供のことを考えて、協力しながらやっていきたいと考えております。

行政側が一方的に、こことここに配置します、ですから、安全ですと言ってもそれが本当に万全なのかどうか、皆様方が納得出来るのかどうか、ということもございます。パトロール員について、配置するということは内部的に意思統一しています。

住 民 内部的な意思統一という部分が信用できません。それを理解しておいて、出来る限り数字を出して欲しい、はっきりこうします、という話を早期に出して欲しいと思います。

それから、通学区域の見直しのところ、区域外の通学ですが、北進町の子供たちを東部小学校に行かせたい、という人数がどのくらいあるのか分からないのですが、もし皆行くと言った場合、こちらの小学校の人数が減りますが、その辺はどのようにお考えですか。

事務局 東部小学校の器的な問題、というのが一つあると思います。それから、統合後の若葉小学校の問題があります。今、言われましたように、何人想定されるのか、先ほど言いましたように、保護者の方々が判断をされた場合ということになりますので明確ではありません。中学校の問題もあると思われまして、色々な条件があると思います。

ただ、今の想定の中では、駅前の高層住宅の方々が、仮に、全員行かれた場合でも、東部小学校の器的な問題、若葉小学校の適正規模も保たれる、と推計はしております。

住 民 我々には関係ない部分ですが、前回か、前々回に言わせていただいたのですが、新富町から東部小学校に来ている。その新富町の人が、どう思っているのか、声を聞いたことはないですが、きっと若葉小学校に行きたいのではないかと、という部分もあります。ここだけの問題ではなく、もっと広域的に考えてもらいたいと思います。

あと1点、中国で地震があつて、校舎の耐震性について新聞にも出ていたと思うのですが、両校の耐震性は震度何まで耐えられるだとか、そんな数値は出ているのでしょうか。

事務局 1点目は、通学区域の話だったと思います。今、お話がありました様に、何回かお聞きされておりますが、基本的に、通学区域は変えない方向で今考えております。ですから、言われるように、新富町の部分で言えば、そういう希望をされる方もいらっしゃるのかもしれませんが、全市的な話になりますので、今回につきましては団地の中に限って認めたいと考えております。それ以外の校区で、色々課題のある部分については、今後の課題としては残るかもしれませんが、現状で言いますと一緒に見直しする考えでは進めておりません。

校舎の耐震ですが、現在の建物の構造の耐震基準は、昭和56年に改正されております。改正以前の建物は、耐震診断をして、その結果、一定の強度があるかないかということをもっと評価する必要があります。その評価によっては、耐震の補強をしなければならない、と法律上なっております。

特に、学校の建物は、今回、法律が改正されて、耐震化に向けて早期に取り組むようにと国からの強い要請もありますので、市の方でも計画的に耐震化に取り組んで

おります。

ただ、耐震化を促進するにあたっては、国の補助制度によって進めていかなければなりませんので、当然、予算的なものですか、予算措置にあたって国の補助制度の採択を受けるといようなこともありますので、その辺の状況を見ながら取り組んでいくべきだと考えております。広葉小学校と若葉小学校は、今後ということで、できる限り早く計画的に進めたいという状況にあります。

住 民 今後進めていただくということですが、今揺れたらどれだけで倒れるのか、ということを知りたかったのですが、その数値はでていないのですか。

事務局 耐震の二次診断は、実際に同じ年度に建てても、コンクリートの状況がどうか、通常コア抜きという言い方をしますが、コンクリートの部分をくりぬいて、その中の強度がどれぐらいあるのか実際に評価しないと、どのような状況にあるのか判断できません。その耐震の診断については、今後ということになるものです。

ただ、学校の建物は、あまり予断でものを申し上げられませんが、8 m×8 mのスペンで教室ができています。梁は、8 m×8 mで入っています。ですから、建物としては非常に丈夫な建物ではないか、と思っております。強度がどの程度までというのは、診断をしなければ出ませんのでご理解いただきたいと思えます。

住 民 新聞で強度が足りないというのが出ていたので、何か調べたのかと思ったのですが、それは調べていないということですね。

事務局 耐震の診断の考え方にも、通常、1次診断2次診断、それから優先度調査と、大きく3つの考え方があります。実際にどこをどう強化しないといけないか、専門的な診断をしてその結果、どこが弱いか、という結果がでますので、その弱い所を強くするための補強工事が必要だということになります。診断の結果、弱い所を補強するための設計をしまして、その設計に基づいて補強工事を進めていくということになります。現時点ではそれ以上のことは申し上げられません。

住 民 わかりました。

住 民 どうして新しい校舎を建てられないのですか。大人の考えでは、若葉小学校と広葉小学校を廃止して新しい学校とありますが、子供にとっては「若葉小学校に行く」ということです。場所は若葉小学校ですから。いくら新しい学校だと言っても、子供は全然納得していません。どうして新しい校舎を建てられないのか、と思ったものから。

事務局 審議会でも、その辺のことは議論されております。学校を統合するのであれば、4校の真中に1校を建てて、そこで統合をすればいいのではないか、という議論もされております。

実際には、北広島団地の中で、団地の中心部に1校作るだけの2万5千㎡とか3万㎡の土地を取得する状況にはありません。今回の統合のことを考えた場合、例えば、広葉小学校で言いますと、築30数年は経っていますが、この校舎は、鉄筋コンクリートですから60年から65年の耐用年数があります。管理をきちっとしていけば、まだ約30年程度は使えます。私どもで管理をさせていただいておりますが、学校は、市民の皆さん全員の財産です。ですから、最大限使える範囲では使う。当然、修繕は必要になりますが、まだまだ使えますので、是非使っていきたいということです。

住 民 リフォームとかはしないのですか。

事務局 当然、リフォームをしたり、年数が経てば、例えば、改造や改修も必要になると思います。先ほどのお話のように、使う校舎については、今後、計画的に耐震化もしていかななくてはなりません。耐震診断の結果にもよりますが、必要な所については予算付けをして対応していきたいと考えております。

住 民 4回くらい説明を聞いております。来るたびに虚しく感じています。全く進歩や改善がない。私に言わせれば、詭弁を弄して、その時その時都合のいい回答をしている、というように感じられます。1回目に、若葉小学校を使う理由の中に校舎が古い、新しいという話をしていましたから、質問をしました。もう40年近く経った建物で、たった2年の差がそんなに大きく左右するのですかと。今、その問題は消えて無くなっています、これを詭弁だと言うのです。

もう一つ、私も教育委員会からそういう回答があったので学校を調べましたが、グラウンドの状態、それから広葉小学校のスロープが危険だと言うので調べました。では、若葉小学校は危険な所が無いのか。そうしたら、大きな危険な場所がある。校地の横に、2.5mの垂直な擁壁があって子供達が何をやるか分からない。駆け登って落ちたら命に関わります。何日か前に、説明会を開いた時にこの問題を話した人がいて、それは管轄外だと言われた人がいたそうですが、道路は管轄外、その通りです。

しかし、管轄外であろうと、そういう地理的条件の場所にある学校をわざわざ残さなくてはならない、というのはどういう意味なのか。

それから、基本的には児童生徒数の多い方を残すべきです。しかし、1回目で説明がありました。少ない学校を多い学校に吸収統合するものではありません、と回答しています。それはその通りだと思います。そういうこともあると思います。しかし、この場合は人数の多い学校を人数の少ない学校に持っていく場合は、その大きい学校

に大きな欠陥がなければならぬのです。あるいは、大きな悪い条件がなければならぬのに、それを訊いたら2年の差で、古いとか新しいとか、或いはグラウンドに水が溜まって水はけが悪い、こんなものは教育委員会の管理が悪いだけの話ではないですか。

私は見えてきたのです。ちょうど雨が降っている時に両校見てきました。広葉小学校に、確かに水が溜まっていた。あれは管理が悪いだけの話なのです。しかし、40年近く校舎がたてば、グラウンドの暗渠排水をやっていたはずなのです。団地事務所でこの学校を造ったのですから。暗渠排水をやっていたのですけれども、40年経ったら暗渠が潰れてしまって排水が出来ないのです。これは若葉小学校も同じです。水はけが悪いです。見てきましたから。ただ、広葉小学校の方が管理が悪いものですから、表面の水を流す所をちょっと掘ってやればみんな流れていきます。校舎の両方に側溝があるのですから、自然に流れていきます。これを放っておいて、水溜まりがあるから悪いと、何を子供だましのようなことを言っているのか。それを、私は、詭弁を弄していると言うのです。なぜ詭弁を弄さなければならないかと言うと、若葉小学校ありき、何かの勢力でそっちに持っていきこうと働きかけたか何か、私は始めからそう感じていました。案の定考えを変えないですね。今、教育委員会が出した平成26年の1年生は、資料では37名に対して13名です。そちらが出した資料1ページ目の人口推移の関係。広葉小学校が37名、若葉小学校が13名、これは率からいけば75%対25%です。3/4対1/4なのです。数字だけ出したら、37対13なんてと単純に思うかもしれませんが、率からいったら、75%の学校が、小さい遠い学校へ行かなければならないのです。これは、考え方が逆ではないですか。統合で残す学校は、教育委員会事務局に任されたのですね。そして、住民の理解を得てやりなさいと言っています。理解というのはどういう意味なのですか。お答えください。

事務局 いくつか質問を受けましたので、順番にお答え申し上げます。校舎のことで言いますと、確かに建設年度は昭和47年と昭和49年ですから2年の差です。校舎の敷地面積については、前にも申し上げました。一部、大規模改修をしておりますが、広葉小学校は昭和63年にやっておりますし、若葉小学校については平成6年と7年に実施しています。体育館について言えば、若葉小学校が平成7年に大規模な改修をしていて差がございます。それから、大きな学校に小さな学校の子供が来るのが当然ではないか、というお話だったかと思いますが、これも中々理解していただけないが、基本的な項目を決めたところで検討し、それで若葉小学校にという方向付けがされておりますが、これは私ども教育委員会事務局が決めていることではありません。審議会で審議されて答申を受けた内容を、教育委員会会議の中で、検討・議論がされました。そして、現地調査も行ない、その結果方向付けがされたことをこれまでも説明させていただいております。そういうことで、現在に至っております。私ども、教育委

員会事務局職員が、この方向付けをしたということではございませんので、その辺はご理解をいただきたいと思います。

住 民 ちょっとお待ちください。最初に、北広島団地小学校の適正配置についてという資料がありまして、適正配置については、適正規模に満たない北広島団地内4小学校は、広葉小学校、若葉小学校、高台小学校、緑陽小学校がある。それを2校にすることが望ましい。ただし、統合によって使用する校舎については、保護者、地域の方々の理解を得ながら決定されたい。「されたい」と言っています。ということは、教育委員会が学校を決めたのではない。先ほど、何か教育委員会に使用する学校は任されたという説明があったのではないですか。

事務局 先ほども言いましたように、方向付けがされましたので、それをもって我々は、今、説明をさせていただいています。

住 民 使用する学校は、教育委員会に任されたのではないのですか。先ほど、そういう説明ではありませんでしたか。

事務局 教育委員会会議の中で、方向付けがされましたので、私どもはそういう方向で、今、皆さんに説明をしているということです。

住 民 分かりました。事務局が資料を作って、教育委員会に渡し、その資料に基づいて教育委員会は決定をするわけですね。教育委員会が、始めから自分で資料を作ってやっているわけではないのでしょうか。委員さんは、事務局が資料を作ってやっているのだから、あなた方がその立場に立って説明しないと。決めたのは、教育委員さんです、そんな卑怯なことを言っていたら駄目です。

事務局 もしそう取られたとしたら、それは私の説明不足ですので訂正させていただきます。いずれにしても、教育委員会一体になって、今、この考え方で統合について説明をしております。そういう方向で今進めていきたい、ということで皆さんにご理解をいただくための説明会を開催しております。

住 民 それで、その理解というのはどういうことなのですか、と私は質問したのです。

事務局 ですから、今の考え方にご理解をいただきたいということです。

住 民 理解という言葉はですね。私は、こちらに来るとき、理解とはどういうことなのだ

ろうと、広辞苑を調べてきたのです。納得して了解することです。ああ言えばこう言う、みたいなことを言われていたら全く了解できません。この会議は、いわゆる実績を積んで、これから議会の文教委員会に諮って、議会で決定するその時の理由付けに、何十回やって何人出たからご理解いただきました。ご理解いただきましたということは、了解したということです。そういう提案を議会にしていくのだと思うのです。そして、決定するのだと思うのですが、私は理解できません。今まで何回聞いても同じ答えだし、遡って本当は配置計画委員さんですか、その方に言いたいのです。本当に子供たちのためを思って、1学年2クラス以上なければ駄目なのであれば、4校を1校にしなければ成り立たないでしょう。高台小、緑陽小学校を見てもそうなのでしょう。それを無理やり2校統合しても増えるのですか、2クラスに。増えないでしょう。それを分かっているながら説明をするから、要するに詭弁を弄する。あなた方の立場は、本当に可哀想で、気の毒だと思います。私が考えたって分かるのですから。本当に気の毒だとは思いますが、もう1回差し戻して4校を1校にする。4校を1校にするにはどこにする。やはり、広葉小学校になるのです。どう考えても地理的条件から。

それから、子供たちの推移は、明らかに利便性のある広葉町・北進町が大多数になります。将来間違いなく。先ほども、どなたかお話しておりましたが、地理的条件と、戸建て住宅は、老人ばかりで子供が増えません。その老人の子供たちは、戻ってきていません。ですから、子供が増えない。それがどこの町内も同じかという、違います。駅に近い利便性のある北進町に住んでいます、札幌にマンションを買って年寄りが何人か出て行きました。そうしたら、小さい子供のいる人が、すぐ購入して入っています。私の所は、北進町3、4丁目自治会ですが、本当です。よく調べてみてください。そういうように、緑陽小、高台小、若葉小学校、これは戸建て住宅が多いから減少の一途を辿っていくと思います。これは、もうそちらの言われる通りなのです。ただ、北進町、いわゆる広葉地区は利便性があるということで、すぐ土地も売れてしまいます。そして、若い人が入ってくる。そうすると、統計に出てこない数字が必ず出てきます。これは、平成26年まで取っておられますけれども、先ほどの説明でもでもないが想像なんかできません。その通りだと思います。しかし、地理的条件をよく考えるとどうしてもそうなるのです。便利のいい所に来るのです。札幌に通うにしても近い所に来るのです。それが想像できますので、先ほどもどなたか言われたように大間違いになります、というのはそういう意味です。ですから、あなた達が定年退職した後に大失敗だったということになります、間違いなく。教育長さん、辞めた後に大変なことになります。とんでもないことをやっていった、こういうことに間違いなくなります。広葉小学校と若葉小学校だけを考えると。長期的展望に立って、4校を考え、こんな拙速な2校を1校にするようなことを考えないで、いった方がいいと思います。私は、今までの説明ではご理解できませんので申し上げておきます。

住 民 補足してお聞きしますが、私は、北進町4丁目に住んでいます。5年前に新築しましたが、やはり駅が近いということで札幌圏のマンションから一戸建てに魅力があって、駅に近いということで購入しました。向かいもすぐ新築して、近所でも若い世代が売り出した所を買いました。最近、また新しく新築したということで、そういう家庭とか若い方が、やはり北進町に来ると思います。そうすると、札幌からの新しい北広島の人口も増えるのではないかという予想は、北進町は1番魅力があるのですが、そこで小学校が遠くなった場合には、その魅力も半減するのではないか、という風に感じています。

第1回目のところに戻るのですが、理解をもってということを見ると、1番最初の適正配置の一枚ものだと、敷地形状、校舎の関係から使用する校舎は、若葉小学校が望ましいと簡単な所から入っています。私たちの方は、やはり、通学が1番心配だと先ほどもおっしゃっていました。1番最初の会議の時にも言ったのですが、中学生と同じ方向に行くという安全性、教育委員会の方もそのことは認める、と話されました。その小学校が中学生のお兄ちゃんと朝一緒に行けるし、小学校の方が帰りが遅くなることはありませんから、お兄ちゃん方と同じ方向に歩いて行くという、そういう安全性のことを言っていたのですが、この紙面にはどこにも書いていない。それから、トリムコースが危険だという風にも出したのですが。広葉小学校に通う場合には、トリムコースを通らなくても、若葉地区からも大きな道路を通って通学することも可能です、と1番最初の会議のときに言いましたが、そのことが書かれていない。パトロール員を配置してという風に書かれているのですけれども、安全性の面ではやはり広葉小学校が利便性や安全性が高いということは、多分認めると思うのです。教育委員会としての売りはあるかもしれませんが、我々の方は、こういう安全性の面、あなた方が話している若葉小学校の方がいいという部分よりも、安全性とか学童保育の施設がある、そういう部分を言っていたはずなのです。それから、小学校と中学校が近いという面で、文科省が言っている小学校・中学校の交流の部分にも反映されるのではないかということも、一切触れられていない。何か、こちらがいいのではということとは載せないで、全部意見は言うのだけれど駄目ですという言い方なので、先ほど言った歩み寄りを考えたら、その部分はあなた方の言う通りなのですけれども、こういう利点があるからこっちの方がいいですよ、というのなら分かります。こちらはこの部分はいいのではないかと強く思っていることも、常識では考えられる所も否定されてしまう。先ほどの、大きな人数の所に来るとするのは、常識的に考えて、1番最初の出発点だと思います。比較すると、北進町の住宅に住んでいる我々にとって、利点がこういう風にあるので、それよりもこういう校舎の利点があるからやはりいいのです、という風に納得できればいいのですが、こっちが言っていることを認めないで、普通は分かるだろうと思うようなことも否定されている。歩み寄りが無い、という風に思います。その辺をもう1度検討してもらえますか。

事務局 基本的に論点の部分につきまして、要するに前提条件が違くだろうということかと思えます。教育委員会としましては、今、子供が減少してきている。その子供たちの日常、学校としての教育環境的な部分においてどうなのかという視点の中で、検討をしております。札幌圏から近いということで、若い人たちも入ってくるというご意見がありました。人数的な減少に、恐らく歯止めはかかるでしょう。増加しますということなのでしょうが、教育委員会では、減少傾向は止まっていないのではないかとこの押さえをしております。

それから、統合によって通学路が伸びる、1番心配しているのは通学時の安全の問題です、ということだと思います。トリムコースが安全か危険か、ということは当初から言われております。我々としては、トリムコースが安全でないという認識は持っておりません。ただ、万全かということになりますと、今の社会情勢から言いますとこれは完璧に安全ですとは誰にも言えない部分があります。ですから、安全性が確保できるよう万全を期していきたいと考えています。その中で、中学生が同じ方向に通うから安全性が高い、ということが一つの論点とされております。しかし、現状を考えた時に中学生が一緒になって安全が保たれるか、というと必ずしもそうは言えないと考えております。登下校時について、私達も現状を確認しております。特に、下校時については、中学生と小学生の時間帯は違います。兄弟、地域の子供同士の繋がり、同じ方向に子どもたちが向かうことについて、安全性を高める意味から一つの方策ではあると思いますが、それをもって必ずしも安全性が高いとは、今の時点では言えないと考えています。

ただ、その代わりとして、安全に関しては私どもの方としても基本的にはパトロー員を配置することを考えております。

それから、学童保育の面、その利点等を否定しているわけではございません。教育環境、やはり広い敷地で、子供たちにゆったり勉強を教えてあげたい、という基本的な考え方があり、教育委員会としてはそのように判断をしているということです。

それと、敷地形状についてはどうなのか、これについては、先ほどからも申し上げているように、日中子どもたちが生活する場としてみれば、使い勝手を含めてそういうものは無い方がいいだろうし、比較しますと若葉小学校、という判断をしてきているということでございます。

住 民 小学校、中学校の交流のことが盛んに言われているのですが、その部分は無視しているのですか。小学校中学校の距離が近い方が、色々な交流場面が増えるのではないのですか。

事務局 小中学校の交流については、現状においても、教育課程の中でできる範囲で実施しております。教育課程というのはある程度決まってくるので、その中で近い遠いで、

やりやすい部分はあるかもしれませんが、それが近いことによって、交流がより密になることは一概には言えないと思います。

住 民 関連しますが、トリムコースだけではなく、通学路のことで言うと、結局、広葉小学校に通った方が安全性は高いですね。そこはどうか。先ほども、結局、若葉小学校の方がいいとぼやかされたのですが。

事務局 逆に、広葉の方がいいという理由が今一はっきり分からないのです。

住 民 ですから、お兄さんと通った方が、夕方遅くなったときに、早い時は心配ないけれども、放課後活動、児童会の活動で3時半くらいに帰るときには、部活動の終わったお兄さんと同じ時間帯になる場面もあって、日暮れぐらいの時にはそっちの方が心強いという部分があります。先ほど言った、トリムコースを通らなくても広葉小学校は通える、地図上で見ると。どうか。

事務局 トリムコースが危険だという判断をされている、ということですね。先ほど申し上げましたように、私どもは、危険だという認識は持っておりません。それで、不安をお持ちだという考えを何回となく聞いておりますので、地域の方々のご協力をいただいて今もやっております。例えば、お年寄りが、見守り隊的な活動をされておりましたり、学校によっては、保護者の方々が見守ってくれていたり、それから健連協の方々も色々な活動をしてくれたり、行政は行政として出来る部分で、安全を確保するために色々な取り組みをしているということがあります。確かに、皆さんから、トリムコースが不安だというような話がかかり出ております。その辺の不安を解消するために、先ほども申し上げました、子供の登校時よりもむしろ下校時、時期によっては4時過ぎくらいでも暗くなるような状況がありますから、そういう時に安全を確保するため、更にそういう人を配置して、皆さんの不安や負担を解消していきたいという話しております。トリムコース自体が、危険で通れないそういう道だとは考えておりません。

ただ、更に安全性を高めるために色々な手立てをこれからも考えていきたいと思えます。

住 民 小学校から、たまに変質者が出ましたという時には、トリムコースの横辺りに出たと教育委員会から流れてきませんか。

事務局 SC通信で色々な形で情報が入りますから、それは本当に危険な人なのか、そうでないのかは別にしまして、少なくとも皆さんに喚起を促す、注意をしていただくということから、そういう情報が入りましたら、速やかに学校や保育園、様々な機関にお知

らせをして安全を確保してもらおう。場合によっては、一緒に帰ってもらおう、というように学校にも要請して、取り組んでいただいております。

住 民 それが、トリムコースの近くに出たのですね。昨年から。

事務局 SC通信を見ていただければ分かると思いますが、トリムコースだけではなく、色々な所に出る可能性はあると思います。子どもは、通学路に指定されている所を登下校するわけですが、登校の時には、皆さん学年を超えて一緒に通われると思いますので、特に下校時の時間帯の安全の確保について、十分考えていく必要があると思っております。

トリムコースも通学路の一つになるかもしれませんが、ここだけではなく、当然1番近い経路で安全を確保できるという所を、学校で通学路として指定いたします。統合をされる場合、通学路は、学校で協議をしながら、保護者の意向を聞きながら、最終的に指定していくことになると思います。

住 民 人通りが少ない所だから出るので、大きな通りを通って皆さんが通える、広葉小学校の方がより安全です。先ほど言ったように、下校の時に、お兄ちゃんと同じ時間帯に帰れるというなら、より安全だ、そういうことから考えると、やはり広葉小学校の方がいいのが明らかなはずですが、ずっと否定なさっているのです。

事務局 トリムコースだけではなく、通学路はその地域、住まわれている場所によって大きな部分を指定しますが、トリムコースだけではありません。

逆に、両校について言えますけれども、ただ一つ、今話題になっておりますのがトリムコースです。トリムコースについても、そういう不安や負担を最大限取り除くための方法を考えていく、ということをお話しております。

住 民 そういうことをやっても事故は起きます。これだけ言って、もし、そういう所で起きた場合には相当の覚悟を持っていただかないと、保護者としては思います。

それから、先ほどの学童の部分は決まってから話し合っていきますと3回目あたりから説明しています。その背景には、学童について広葉小学校に施設があって、広葉小学校の方が優位である、そういう風な要素が多いのです。その部分を伏せるため、まず決めて、それは後で考えます、という風になっているように我々には感じられます。

事務局 それについては何度もお話をしていますが、まずは子供たちの教育環境としてどうかということで考えております。学童クラブについては、統合が決まった後に、保護者の皆様方とお話をして、色々方法を考えていくということを説明しています。

学童クラブありきで使用する校舎を決めているわけではありません。確かに、今の状況はいいのかもしれませんが、教育環境的に、日常毎日使う学校としてどうなのか、という観点で検討してきています。

住 民 学童ありきで考えているのではない、学童を主として考えるのではないのですか。先ほど、そう説明をしていたでしょう。学童ありきで考えていないとはどういうことか。子どもたちのことをまず考えるのでしょうか。そのための統合ではないのですか。

事務局 教育を受けるための学校として、施設としてどうかということです。

住 民 子どもたちのことを考えるのでしょうか。学童ありきで考えていない、というのはどういう意味なのか。

事務局 学童クラブが広葉小学校にあるからそれを優先して考える、ということで検討してきたわけではないということです。

住 民 やはり、最初から最後まで、歩み寄りが無かったのだな、と参加している皆さんがそう感じていると思います。そして、教育委員会の方々も、今日もまた理解が得られなかった、と思っていると思います。質問して帰ってくる答が、学校選定のところで、広葉小学校ではなく若葉小学校に行きたい、若葉小学校の方にしたいのだという理由をつけるために、色々なことを明確にしたり、はぐらかしたり、言ってみたり言わなかったりという風にしか私には受け取れないです。恐らく参加している方も、本当に若葉小学校ありきの答しか返ってきていない、というのが率直な意見だと思います。

先ほど、学校選定が、教育委員会の中にあるどこかの委員会がやったとか、事務局が案を作ったとか色々な話はあるのですが、これからの展望として、学校を、例えば広葉小学校の方にする考えがあるのかないのか、これだけ色々な意見が出ています。まして、地域に分けて、それぞれの地域の率直な意見を聞きたいと言ったので、今日は北進町ですが、北進町は恐らく広葉小学校と言う風に学校選定になると、ガラッと説明会の雰囲気が変わると思います。そういうことを今から議論をする余地があるのか。質問した答えが1回目から言っておりますが、先ほども申しましたが、結局理解していないからこちらは何回も聞くのです。それで、何回も同じ質問になって、何回も同じ答えが返ってくるのです。理解という意味を先ほど言いましたが、理解していません。理解できないのです。広葉小学校の方に学校を振りかえるとか、もう1度私たちの意見を真剣に考え、こういった意見がいっぱい出ていました。事務局サイドとして、学校を選定するその場に引き返すような、そういうことは今後可能なのでしょうか。或いは、そういうお考えが今あるのでしょうか。

事務局 ご質問いただいた内容については、これまでもそれぞれの説明会の中でも出ております。私どもの答えとしては、また同じだと言われるかもしれませんが、基本的には審議会、教育委員会会議で議論された内容を、1回目で説明して理解していただけない所、また説明の足りなかった所を2回目で説明させてもらっています。2回目で、また新たな質問ですとか、意見が出ておりますから、そういうものを整理し、Q&Aの形にして3回目の説明会をさせていただきました。

今回は、先ほど言いましたように、他の校区とは違いまして、まだ意見や議論や質問が出ている状況がありますので、それぞれの地域で持たれている疑問等に違ったものもあるかもしれないということから、3地区に分けて説明をさせていただいています。20日、21日と輝美町を中心に、今日と明日は北進町の皆さん、4日、5日については、広葉町・栄町の皆さんにそれぞれご意見をお聞きしたいということから、こういう説明会を開催しております。

基本的なスタンスとしては、何回も言いますが、今の我々が説明をしている内容をご理解していただくための説明会ということですから、現状で言えば、変える考えは持っておりません。

住 民 ということは、もう、一方通行ですね。

事務局 今までの説明会で、かなり反対の意見、それから疑問・質問が出ていたことを受け止めております。それで説明をし、資料を見ていただいて理解を得られている部分も当然あると思っております。今回も、少しでも理解していただくように、今説明させていただいているという状況です。

住 民 率直な意見、言葉が出ないので質問を止めます。

住 民 今後も、この様な話し合いが続くのは耐えられません。ここに居る人たちは、誰も理解していないので、理解してもらうために私たちはこういうことを考えました、ということを出してから、それを我々が読んで、それだったら話し合いをする土壌ができ、そこで話し合いを始めましょう、という風にしたいと私は思うのですが、いかがですか。ずっと、これが続くと平行線です。基本的な考えは変えないという所も理解出来ません。どうして変えられないのか理解出来ないで、なぜ若葉小学校なのか、決定打が無い。決定打があれば、ここに居る人たちは理解するかもしれない。そして、広葉小学校にも利点があるのに、それを出していない。利点はたくさん皆さんから出たと思うのですが、その利点があるのに、なぜそれを認めようとしらないのか。それはどうしてなのでしょう。

事務局 これまでも説明してきておりますが、両校に決して欠点があるということではありません。両校をいくつかの視点で比較をして、校舎を中心に、通学上の事も当然質問が再三出ておりますから、そういうことも考えた上で、若葉小学校の方が望ましいという方向が出ております。確かに、舌足らずな所もあるかもしれませんが、理解をしていただくための説明会であり、説明であるということです。

住 民 審議会の答申、平成18年12月の適正配置については、適正規模に満たない4小学校の統合について、2校とするのが望ましい。ただし、統合によって使用される校舎については、保護者や地域の方々の理解を得ながら決定されたい、と1番最初の大本があるのです。それなのに、今の話で聞くと、もう決めているからという風な言い方をされたのですが、その1番最初の大本の、まずありきのものを、無視しているのではありませんか。

事務局 これまで3回説明会をしてきておりますが、ほとんど出ていただいていると思いますので、その議論は聞いていただいていると思います。中々理解してもらえない、我々の言うことを聞いてくれないという話があります。少なくとも、経過を含めまして、今まで我々は説明させていただいていると思っております。ですから、最初から我々が説明している方向付けについて、理解をいただくための説明会ということです。

今回も、接点が無いと言われますが、地域を細かく分けてお話を聞き、我々の話を聞いていただくという説明会です。

住 民 まず、教育委員会の方で原案を作ってください、こういうことで若葉小学校の方がいいのではという案があつて、どうですかということで叩き台を作ってください、地域の方が、こうではなくこちらの方がいいという話し合いをして、それで保護者や地域の方々の理解を得ながら決定するという事に繋がるのではないのでしょうか。

説明会というような、先ほど話された、現状で言えば変えるつもりはない、今の案にご理解を得るための説明会です、というようなことを言われたのですが、そうなのですか。

事務局 また最初から経過を含めて説明させて下さい。

住 民 いいえ、いいです。

事務局 とすれば、ご理解いただきたいと思います。少なくとも、今までの経過がありまして、私どもは出た方向について説明を再三させていただいております。

事務局 限られた条件の中で選択をするということで課題が出され、その課題について我々が考えていることをお話して、理解を得る、そういう形で進めています。

我々の判断、考え方、安全面においても通学距離の問題にしても、統合の方向付けがされた段階で、皆さんから出されたことについては一緒に解決していこうと思っています。そういったことを、色々と説明会の中でもやり取りをしてきているのですが、その所が中々回らないという認識はしています。

しかし、何とか理解をしていただくような中身で、我々も説明をしているつもりですが、安全性が違うのだという認識、安全でないとする認識と安全だという認識、そこは中々難しいです。ですから、それをお互いに新しい学校を作るという視点に立って、子供のためにどういう環境がいいのか考えていきましょうということでお話をしております。

住 民 それであれば、3回目の説明会の最後の方で話したのですが、高台小学校と緑陽小学校の方が結構進んでいるのだから、こっちがこれだけ嫌ならば、まだいいのでは、まだ保留でいいのではと思います。理解を得られないのであれば。あちらの方が進んでいて、こちらがこれだけもめるなら、取りあえず向こうに進んでいただいて、後々にしていただいたほうがお互いに仲良くなれると思うのです。その辺を含めて考えて欲しい、という要望を最後に出しておきます。

事務局 今日の説明会はこの程度にさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。それから明日10時からまた説明会をこの場で予定しております。質問や、何かお話ししたいということがありましたらまた参加をしていただきたいと思います。今日の説明会はこれをもって終了させていただきます。ありがとうございました。

(注) 発言を要約したものであり、発言すべてを記述したものではありません。